

学内広報

2022.5.25

no.1558



第95回五月祭「めいちゃんパレード」(5月14日)



D&I
UTokyo
Diversity&Inclusion

志ある卓越。



現代の広報に欠かせないツールを大学はどう活用しているのか

#SNSと東大

現代の広報に欠かせないツールを大学はどう活用しているのか

#SNSと東大



プラットフォームごとの栄枯盛衰はありながらも、多くの現代人にとって欠かせないツールとなっているSNS。学内外のコミュニケーションを進めたい大学にとっても大きな意味を持つことは間違いありません。そこで、SNSの利用を始めて11年が経過した本学の公式アカウントが、これまでどのような発信をしてきたのか、現在どのような発信をしているのかをまとめて紹介します。SNSを日々活用している広報室副室長のインタビューとあわせてご覧ください。

現在、東京大学広報室が運用しているSNSは、Twitter、Facebook、YouTube、Instagram、LinkedInの5つです。最後の2つはまだ試用の段階にとどまっていますが、YouTubeでは動画の制作に応じて適宜発信を行い、TwitterとFacebookでは毎日何かしらの情報を発信しています。大学としてのメッセージや推進している取組みの情報、広報室界限で制作した各種コンテンツを周知するほか、学内各部署から広報したい情報を募り大学として発信することも盛んに行っています。

2011年にSNS発信を開始

TwitterもFacebookも、2011年の使用開始からしばらくは、全学ホームページに掲載したお知らせやプレスリリース、イベント情報などの記事タイトルとURLを発信するという使い方で、投稿は基本的に文字だけでした。2015年の全学ウェブサイトのリニューアルでCMS^{*}を採用し、2016年からはホームページの記事公開と連動する形で記事のタイトルと文章と画像が自動投稿されるようになりました。その後、字数が140字に限定されるTwitterがより普及し、文章が尻切れトンボ状態で表示される自

動投稿では訴求しづらいという分析から、2019年には適した文章を個々に用意して投稿する形に変更し、いまに至ります。近年では、ホームページで公開した記事の周知だけでなく、月別のテーマを設定して該当する情報を集めて発信したり（月別テーマ）、東大にまつわる過去の出来事をピックアップし出来事が起きたその日に発信する（「今日は何の日？」）など、SNSオリジナルの企画も展開しています。

インプレッションは4年で6倍に

Twitterでは、2011年5月の利用開始から現在まで約7,700件の投稿を重ねてきました。遡れる範囲のデータを年度別に見ると、2016年度に465件だった投稿数は2021年度には1,586件へと増加。ユーザーがツイートを見た回数を示すインプレッション数も、2016年度の約526万が2021年度には約2,968万とおおよそ6倍弱に伸びています。フォロワー数も順調に増えており、2016年度の約2.4万が、2022年3月現在では約6.6万を数えています。

直近の数字を見ると、2022年3月26日～4月20日の28日間で、ツイート投稿数は146本（1日あたり約5本）。インプレッション数は約262.2万件（同9.2万件）、

3,945件のコメントなしリツイート（同141件）、約1.2万件のいいね（同434件）を記録しています。日本語と同時期に開設した英語アカウントでも、2016年度と2021年度の比較では投稿数が310件から684件へ、フォロワー数が2,315から1.6万へ、インプレッション数も67万から160万へと大きく伸びています。

Facebook 離れは東大でも

一方、FacebookではTwitterほどの伸びは見られません。2016年度と2021年度の比較では、フォロワー数は3.4万から3.6万へと微増にとどまり、ページのコンテンツを見たユーザー数を表すリーチは498万から150万へとかなり減っています。日本語アカウントよりずっと多いフォロワー数（10.5万）を誇る英語アカウントでも事情は似ており、リーチは442万から309万へと減少しているのが現状。昨今、若者を中心にFacebook離れが続いていると言われていますが、それも影響しているのかもしれない。

今後の課題はInstagramやTikTokなどの画像・映像系SNSを活用すること。次代を担う中高生への訴求を考えるならこの辺りが肝になりそうです。

* コンテンツ管理システム（東大ではALAYA）

東大広報室のTwitter発信バリエーション

●今日は何の日？



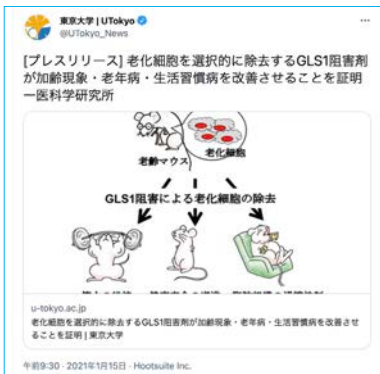
X年前の今日に起こった東大関連の出来事を画像とともに紹介する企画。3月末までに26件を投稿し、東大公式アカウントの平均値を大幅に超える反響を得ています。中でも人気だったのは、ハチ公の命日、東京タワー完成、土星型原子モデル発表、ニホンオオカミの最後の捕獲、『国富論』刊行など。コロナ禍やウクライナ侵攻で重たいムードが世に漂うなか、癒しと知識の提供に触発された読者が、引用RTの形で自分の知っている情報を追記するというフローが生じています。

●月別テーマ



月ごとに一つテーマを決め、あてはまる記事を全学から探して投稿する企画を2018年頃から日・英で続けています。たとえば左は2019年度11月の「技」というテーマの際に投稿したもので歴代最多となる9500ものいいねを獲得しました。2021年度のテーマは4月から順に「探検」「子ども」「土地」「海」「夏」「防災」「進化」「技」「伝統」「始まり」「喜怒哀楽・感情」「多様性」。2022年度は「多様性」「映画」「脳」「コミュニケーション」「気候」「虫」「神話」「季節」「宇宙」「笑い」「発明」「未来」となっています。

●プレスリリースなど



プレスリリース、イベントの告知、研究者の受賞報告、各種のお知らせ、プロジェクトの紹介など、各部署・部署からCMSのALAYA経由でホームページのUTokyo FOCUSに投稿された記事内容の一部を、TwitterとFacebookの公式アカウントから発信しています。左は医科学研究所から投稿された記事のもので、歴代最多の181万ものインプレッションを獲得しました。学内の広報担当の皆様はUTokyo FOCUSへの投稿を積極的にご検討ください。

●広報誌などの記事紹介



広報室が運営している『学内広報』・『淡青』・UTokyo FOCUSといったオンラインメディアの記事内容を、発表した順にTwitterとFacebookで投稿してお知らせしています。左は2018年9月発行の「淡青」37号（猫号）に掲載した宮崎徹先生（医学系研究科＝当時）の研究紹介記事。歴代最多となる4800ものRTを獲得して大きな話題を呼び、特集をもとにした書籍『猫と東大』（東京大学広報室編、ミネルヴァ書房）が2020年11月に刊行されるきっかけとなりました。

東大のTwitter活用状況を他大学と比較してみた

●国内

	フォロワー数	投稿数	開始日
東京大学	66,301	7,622	2011年5月
早稲田大学	60,156	8,660	2011年2月
近畿大学	48,089	61,000	2010年2月
京都大学	42,603	8,183	2010年1月
立教大学	38,406	7,793	2009年11月
大阪大学	35,107	7,766	2010年2月
法政大学	31,487	9,595	2011年5月
上智大学	25,327	4,630	2013年11月
立命館大学	25,302	2,018	2016年3月
明治大学	23,884	5,515	2012年2月
東北大学	22,342	11,000	2009年11月
関西大学	21,813	9,415	2012年6月
東京工業大学	18,689	7,588	2010年7月
慶應義塾広報室	14,117	8,847	2011年4月
青山学院大学	14,041	1,043	2013年5月

※2022年4月5日にカウント

日本の大学で最も早くアカウントを開設したといわれる敬和学園大学に遅れること4年、2011年に東大のTwitter史が始まりました。開設時期では旧帝大仲間である東北大学や京都大学や大阪大学にも遅れましたが、現在のフォロワー数では国立が私立かを問わずトップの位置にいます。投稿数では「おはようございマグロ」で知られる近畿大学がダントツの多さを示しています。

●海外

	フォロワー数	投稿数	開始日
Harvard University	134.9万	4.6万	2009年5月
Massachusetts Institute of Technology	120.1万	2.1万	2008年7月
Stanford University	89.9万	2万	2008年12月
University of Oxford	80.9万	2.2万	2009年6月
Cambridge University	67.1万	1.3万	2009年4月
Yale University	61.9万	2.7万	2007年5月
清華大学	51.2万	7,388	2015年11月
Princeton University	47万	4.2万	2007年5月
Columbia University	44.1万	3.2万	2011年2月
北京大学	32.3万	4,742	2017年4月
UC Berkeley	22万	2万	2010年8月
Johns Hopkins University	20.8万	3.6万	2008年4月
University of Melbourne	11.4万	3.9万	2008年5月
University College London	10.9万	5642	2011年6月
California Institute of Technology	10.5万	8,926	2008年10月
東京大学	6.6万	7,622	2011年5月

※2022年4月5日にカウント

海外名門大学の多くは日本の大学よりずっと早くTwitterの活用を始めていました。フォロワー数も投稿数も日本の大学とは桁違いです。Twitterの発祥国であるアメリカの大学やその他英語圏の大学はもちろんですが、VPN経由でないと国内ではアクセスできないとされる中国の大学も、開始時期が比較的最近なのにもかかわらず、非常に多くのフォロワーを獲得しています。



東大広報室Twitterの歴代人気投稿20傑を調べてみた

●インプレッション数

1	GLS1阻害剤が加齢現象等を改善させることを証明 (プレスリリース) 2021/1/15	1,810,644
2	「不要 (用) 不急」(学内広報) 2021/5/11	1,368,160
3	AIMでネコの寿命が2倍に!? (淡青) 2018/10/9	1,000,990
4	COVID-19の病態説明/予防・治療法の開発 (プレスリリース) 2020/6/23	748,595
5	ウクライナ侵攻について (総長メッセージ) 2022/2/25	639,248
6	日本学術会議の会員任命について (総長メッセージ) 2020/10/9	599,409
7	入学者歓迎式典を挙ります 2021/4/16	585,409
8	本学学生を名乗るwebテスト代行について 2021/7/30	474,557
9	ロシアのウクライナ侵攻を読み解く 2022/3/30	362,731
10	東京大学卓越研究員 (公募型) を決定 2021/3/5	326,108
11	歴史家ワークショップ「配信時代のアウトリーチ」 2021/9/2	309,341
12	東京タワーが完成 (今日は何の日?) 2022/12/22	309,304
13	北斎の青とセルロースナノファイバーで被災地除染 (UTokyo Research) 2017/10/13	293,394
14	藤井輝夫総長が就任 2021/4/1	267,245
15	延期になっていた入学者歓迎式典を挙ります 2021/5/31	247,064
16	理学系研究科と国立天文台の「重大な研究成果に関する発表会見」をライブ配信 2017/10/16	244,379
17	ハチ公の命日 (今日は何の日?) 2022/3/7	230,804
18	「総長室だより」12回目を更新 2018/7/31	223,328
19	量子コンピュータ研究支援基金のお願い 2018/6/18	221,065
20	SAT大蔵経データベース研究会 2018/8/2	219,476

●いいね数

1	東大唯一のガラス工房 (月別テーマ) 2019/11/12	9,507
2	「不要 (用) 不急」(学内広報) 2021/5/11	7,746
3	GLS1阻害剤が加齢現象等を改善させることを証明 (プレスリリース) 2021/1/15	6,721
4	AIMでネコの寿命が2倍に!? (淡青) 2018/10/9	5,654
5	ウクライナ侵攻について (総長メッセージ) 2022/2/25	4,868
6	日本学術会議の会員任命について (総長メッセージ) 2020/10/9	2,905
7	COVID-19の病態説明/予防・治療法の開発 (プレスリリース) 2020/6/23	2,788
8	ハチ公の命日 (今日は何の日?) 2022/3/7	2,162
9	在学中にデジタルハリウッドに通って技術を会得した卒業生・瀬尾拓史さん (淡青) 2019/12/24	1,691
10	東京タワーが完成 (今日は何の日?) 2022/12/22	1,503
11	東大オンライン授業の現在地 (学内広報) 2020/8/4	1,399
12	動物園と動物アニメは絶滅危惧種への関心を高める (プレスリリース) 2019/11/22	1,337
13	入学者歓迎式典を挙ります 2021/4/16	1,274
14	スーパーカミオカンデが12年ぶりに検出器のふたを開け改良工事 2019/4/18	1,087
15	農正門前路上の事件について 2022/1/15	1,037
16	レヴィエストロースの70年来の謎を解明 (プレスリリース) 2020/1/22	921
17	火災の発生につきまして (お詫び) 2021/8/15	860
18	佐渡島のキングギドラシリス (プレスリリース) 2022/1/20	747
19	延期になっていた入学者歓迎式典を挙ります 2021/5/31	742
20	高木貞治先生のノート (学内広報) 2021/7/6	739

●リツイート (RT) 数

1	AIMでネコの寿命が2倍に!? (淡青) 2018/10/9	4,887
2	東大唯一のガラス工房 (月別テーマ) 2019/11/12	4,211
3	GLS1阻害剤が加齢現象等を改善させることを証明 (プレスリリース) 2021/1/15	3,646
4	「不要 (用) 不急」(学内広報) 2021/5/11	3,082
5	COVID-19の病態説明/予防・治療法の開発 (プレスリリース) 2020/6/23	2,279
6	ウクライナ侵攻について (総長メッセージ) 2022/2/25	1,710
7	日本学術会議の会員任命について (総長メッセージ) 2020/10/9	1,566
8	動物園と動物アニメは絶滅危惧種への関心を高める (プレスリリース) 2019/11/22	1,026
9	ハチ公の命日 (今日は何の日?) 2022/3/7	779
10	スーパーカミオカンデが12年ぶりに検出器のふたを開け改良工事 2019/4/18	749
11	量子コンピュータ研究支援基金のお願い 2018/6/18	744
12	理学系研究科と国立天文台の「重大な研究成果に関する発表会見」をライブ配信 2017/10/16	644
13	東京タワーが完成 (今日は何の日?) 2022/12/22	561
14	農正門前路上の事件について 2022/1/15	557
15	入学者歓迎式典を挙ります 2021/4/16	513
16	在学中にデジタルハリウッドに通って技術を会得した卒業生・瀬尾拓史さん (淡青) 2019/12/24	510
17	東大オンライン授業の現在地 (学内広報) 2020/8/4	452
18	スーパーカミオカンデ一般公開 2019/9/17	405
19	火災の発生につきまして (お詫び) 2021/8/15	389
20	佐渡島のキングギドラシリス (プレスリリース) 2022/1/20	382

●エンゲージメント率

		%
1	第3回イノチャンが終了しました 2020/8/16	23.7
2	当事者研究導入オンライン講座案内 2021/11/2	18.9
3	教育学部附属中等教育学校で世界にチャレンジする6年生の受賞報告・壮行会を開催 2017/5/29	13.5
4	COVID-19の病態説明/予防・治療法の開発 (プレスリリース) 2020/6/23	12.9
5	高木貞治先生のノート (学内広報) 2021/7/6	12.5
6	農正門前路上の事件について 2022/1/15	12.2
7	モデルナ社製新型コロナウイルスワクチンの異物混入に関する本学の対応について 2021/9/1	12.1
8	日本学術会議の会員任命について (総長メッセージ) 2020/10/9	11.6
9	前期日程試験第1段階選抜合格発表 2022/2/15	11.5
10	ウクライナ侵攻について (総長メッセージ) 2022/2/25	11.5
11	火災の発生につきまして (お詫び) 2021/8/15	11.5
12	本学学生を名乗るwebテスト代行について 2021/7/30	11.2
13	COVID-19緊急対策のために (総長メッセージ)	9.8
14	【お知らせ】研究アルバイトの募集 2017/8/21	9.7
15	物理学専攻の大小田結貴さんがBBC「ここの女性100人」に 2018/11/28	9.7
16	キャンパスツアーをオンラインで再開 2020/7/22	9.6
17	高機能自閉スペクトラム症の手指運動に見られる業指優位 2019/2/12	9.6
18	活動制限レベルを変更 2022/3/28	9.1
19	活動制限レベルが「レベルB」から「レベルA」に 2022/3/28	8.9
20	宇佐美圭司展覧会を実施 (学内広報) 2021/6/2	8.8

2011年5月～2022年3月の人気投稿を4つの指標で振り返ってみたいところ、ここ数年の投稿ばかりが並びました。フォローがまだ少なかった時代は、反応の数がいまとは比べものにならなかったようです。

インプレッションとRTといのねの3部門で上位に名を連ねたのは、加齢現象やCOVID-19治療に関する医学研究所のプレスリリース、国民が不要不急の外出を控えた時期に書かれた文書館のコラム、ネコの腎臓病治療の研究を伝える記事、生産技術研究所の試作工場に残るガラス職人の紹介動画、重要な時事問題や事件に関する大学としてのメッセージなど。「今日は何の日?」企画では、東京タワー完成日とハチ公の命日の投稿がベスト20に入りました。春の式典は毎年多くの関心を集めますが、コロナ禍を受けて特別に企画された令和2年度入学者歓迎式典のお知らせはとりわけ多くの関心を得ていました。

インプレッションとRTといのねの数はもちろん連動していますが、動物アニメと動物園が絶滅危惧種への関心を高めると明らかにした農学生命科学研究科のプレスリリースや、CGクリエイターとして活躍する総長賞受賞者の卒業生を紹介した記事のように、インプレッション数がそれほど目立たなくても多くのRTといのねを獲得するものもあることがわかります。

いいね+RT+返信+フォロー+URLクリックの合計数をインプレッション数で割って算出されるエンゲージメント率では、イノベーションのアイデアを競う高校生大会の報告 (工学系研究科)、東京大学エクステンションの研修プログラム、附属学校生の受賞報告と、他の3指標とひと味違う顔ぶれがベスト3に入りました。入試日の刺傷事件、ワクチンなどのCOVID-19関連、構内での火事など、命に関わる情報に閲覧者が敏感に反応している状況も窺えます。



SNSをフル活用している副室長に聞いてみた



情報学環教授
広報室副室長
渡邊英徳

私は主にTwitterを利用しています。フォロワー数は現在約6.5万人。カラー化した白黒写真をもとに対話の場を生む「記憶の解凍」

プロジェクトの一環としてカラー化写真を投稿し始めてから数が急増しました。

今年4月12日、1945年の同日に知覧飛行場で特攻隊員を女学生が見送っている写真を投稿しました。すると、衣服の色が実際のものと違うはず、というコメントを『この世界の片隅に』の片渕須直監督からいただきました。このようにSNS上で様々な人の知識が集まり、色の精度が高まると同時に、写ったものの記憶が多くの人に共有される。こうしたコミュニケーションが生まれるのがSNSの醍醐味です。また、知り合い同士が繋がるFacebookと違い、Twitterでは直接繋がっていないユーザー同士もRTやいいねを通して「通電」することがあります。思わぬ繋がりと広がり期待できるのです。

思いより事実の投稿に価値が

投稿の際、自分の意見・思いはなるべく控え、事実のみを淡々と書くよう心がけています。一見して「悲惨だ」と感じる写真でも感想は書かず、いつどこで

撮られた、と単純に書き添えます。「素」の状態届け、写真を見た人自身がことばを加え、情報の価値が高まっていく。そうした“フロー”を生むトリガーとなることを意図しています。意見の表明は論文や著書などで、という立場です。

考えを書きたくなるときももちろんあります。そんなときは、映画や小説などの作品から自分のことばを代弁してくれそうな台詞を引用し、投稿します。よく引用するのは『復活の日』『日本沈没』などの小松左京作品。コロナ禍や自然災害など、現在の状況と重なり合うからです。また、最近は「ウクライナ衛星画像マップ」の更新情報と同時進行で、太平洋戦争に関わるカラー化写真を投稿しています。タイムラインに二つの戦争の写真を時代を越えて並べることで視覚的にメッセージを伝えられます。情報デザインの研究者として、作品の発表、研究の実践の場としてSNSを活用しています。

海外名門大の例がヒントに

総長補佐を務めた昨年、東大公式アカウントの活用案を考えることになりました。他大の事例を調べたところ、ハーバードなどの有力大学が、大学のアーカイブをもとに、できごとが起きた日と同じ日に「〇〇年前の今日」として記事を投稿していました。フォロワーは過去のできごとの知識を得られ、大学に対する親しみやすさやイメージが向上する。こう



渡邊先生の「Twitter」で反響がこれまでに最も大きかった投稿がこちら。いいねが約5万も！

した事例を参考に、教員・学生・職員でチームを組み、昨年12月に「今日は何の日？」企画を始めました。インプレッション数は他の投稿に比べて平均で8倍ほど多く、大きな反響があります。統計をみると、新規フォロワーの獲得にも貢献しているようです。一年経つとたいいていことは忘れられるので、投稿は翌年に再活用することもできます。

広報室で今後検討したいのは「今日のキャンパス」企画です。大学の主役はやはり学生。ワークショップ、実験、課外活動など学生が活き活きと活動する姿を発信し、楽しそうな場だと感じてもらうことが大切です。国内外の受験生・留学希望者にも効果的はせず、楽しませること、役に立つことを意識しながら、大学で「いま何が起きているのか」を発信できればと考えています。経験上、策を練って入念に仕込んだ投稿は、思惑が透けて見えるのか、それほど反響を呼ばない傾向があります。「素」のまま、受けようとしなことが肝要かもしれません。

●東大SNSその他トピックス

スーパーカムオカンデジグソーパズルがTwitterで大ヒット

2017年10月3日、宇宙線研究所公式アカウントが一本のツイートを投稿しました。「そういえば、スーパーカムオカンデジグソーパズルを作りました。激ムズです。光電子増倍管だらけで……。正直、最後まで完成できるかわかりません」。このツイートは担当の「想像を絶する反響」を呼び、RTは1.6万、いいねは1.8万まで伸展しました。当初は柏キャンパス一般公開での限定販売でしたが、東急ハンズや東大生協での販売、通信販売へと拡大し、ピース数を増量した第2弾も発売。あ

まりの人気に転売ヤーが跋扈する事態ともなり、「高く買わないでください」と担当者が訴える一幕も。東大SNS史に残る大ヒットとなったパズルは現在も販売中です。

記念すべき1回目のTweetは？

東大公式アカウントのTwitterデビューは2011年5月31日のこと。一番最初のツイートとなったのは、18時17分に投稿された「Topics: 東日本大震災に関する救援・復興支援活動をとりまとめました(5/27版)」というもの。3件のRTを得ましたが、いいねは0件でした。この日はほかに4件の投稿があり、最もRTを得たのは「2010年ノーベル文学賞受

賞 マリオ・バルガス＝リョサ氏講演会(人文社会系研究科・文学部)」で10件でした。

非公式アカウントのチャレンジ!?

4月20日現在、全学ウェブサイトのソーシャルメディアアカウント一覧ページには、公式Twitterアカウントとして55部局・部署が登録しています(日本語のみ)。公式ではなかなか攻めの投稿やゆるゆるな投稿ができないものですが、中には非公式アカウントを設定してそうした投稿を続けている組織もあります。非公式ゆえにここで詳しく紹介できないのが残念ですが、大学のSNS活用における一つのスタイルを示しています。

教養教育の現場から

第51回

リベラル・アーツの風

創立以来、東京大学が全学をあげて推進してきたリベラル・アーツ教育。その実践を担う現場では、いま、次々に新しい取り組みが始まっています。この隔月連載のコラムでは、本学の構成員に知っておいてほしい教養教育の最前線の姿を、現場にいる推進者の皆さんへの取材でお届けします。

社会と協働する教養教育の姿を実例から探る

／シンポジウム「大学における社会連携による教育の可能性」

——毎年恒例のKOMEXシンポジウム。今回は社会連携部門が担当したんですね。「近年は情勢の変化が急ですが、社会の人たちはそれに対応しています。社会連携部門は、リアルタイムに変化と向き合う人たちの協力をいただき、コロナ禍でもオンラインで社会の現場から学生に声を届ける試みを続けています。そうした活動例をシンポジウムで共有しました」

コンサル会社や音楽家との協働

「難民問題などの研究に軸を置きながらビジネスに関する授業などを手がける高橋史子先生は、コンサルティング会社アクセンチュアと連携した取り組みを紹介しました。インタビューを通して現代社会の課題を捉え、どうすべきかを探る。まとめを企業のトップにプレゼンして評価をもらうインターンシップのような試みも行っています。様々な人と対話することが重要ですが、学生がいきなり見知らぬ人と話す機会を作るのは簡単ではないし、妙な勧誘を受けるかもという懸念もあります。大学側が安全を担保する形でこうした機会を提供しているわけです」

「音楽史やサウンドデザインを研究する山上揚平先生は、作曲家とともに音を題材に感性を磨く表現・創作の授業を紹介

しました。たとえばゲームソフトに流れるメロディのような音の表現について学び、何かしらの意図をもって音色を創る体験をしてもらう。従来の枠に取まらない授業ですが、感性を磨くことが知性にポジティブな影響を与える可能性が指摘されています。従来はなかった、感性を使った社会認識や他者との関わりを体験することに意味があります」

——ブランドデザインスタジオや渋谷QWSや金曜特別講座などの紹介のほか、学外の方の講演もありましたね。

「筑紫一夫さんは学校建築を得意とする建築家です。以前、新しい教養教育に相応しい教室の姿を議論し具現化した成果が21 KOMCEEでした。従来の教室のように一方向を向くのではなく、対等に顔がオープンに見える状況・場を目指した建物です。地元の人とともに活動し自分たちの学びにもなるというコンセプトで保育施設と保育士育成の場を組み合わせた相模女子大学など、筑紫さんが手がけたほかの事例もお話いただきました」

教育はオープンにすることが肝

——登壇した皆さんによるパネルディスカッションはどのようなものでしたか。「視聴者の質問に答える形でした。たと

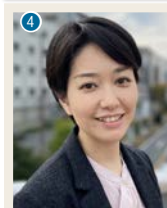
社会連携部門長
教授

渡邊雄一郎



えば「渋谷QWSのような試みは東京だからできるのでは？」という質問には、規模の違いはあるが同様の試みは各地でできる、聞かれればノウハウは誰にでも伝えると野城智也先生が返答されました。事例紹介だけでなく、それを活用してほしいという気持ちが滲み出たパネルだったと思います。教育に関わることは抱え込むのではなくオープンにすることが大切です。シンポジウムの報告書を活用しながら卒業生の皆さんや、新たな民間のパートナーと関係を築きたいと思います」

「私自身は昔から何かものを作りたいと思っていて、東大に入学した当時は工学部志望でした。でも、教養学部で受けた授業の中で自然が作ってきたものは人工物よりスゴいと思い、生命科学の道を選んだんです。学生時代は教養教育の価値に気づかないものですが、歳を重ねると学んだことの意味がわかってきます。教養教育はその瞬間的なものではなく一生にわたるものです。環境問題も国際情勢もSDGsも、何か一つの専門分野を学ぶだけでは解決できないでしょう。分野を越えて考えることが必要です。私たち教養学部は、そのために試行錯誤を続けなければいけないと思っています」



「登録数は150人でした。社会連携本部によるメルマガ告知で、新たな繋がりが見えた方々の参加も多くありました」(渡邊先生)

プログラム 2022年3月15日(火) ※Zoomウェビナー

開会挨拶 森山工 (教養学部長)
KOMEX 紹介 網野徹哉 (KOMEX 機構長)
趣旨紹介 渡邊雄一郎

アクティブラーニング型授業の10年

①宮澤正憲 (社会連携部門特任教授)

教養教育における学外展開の可能性

②筑紫一夫 (株式会社 学校計画 代表取締役)

渋谷 QWS と東京大学

③野城智也 (生産技術研究所教授)

大学の学びと「社会」の接続

④高橋史子 (社会連携部門特任講師)

教養教育としての表現・創作実習の試み

⑤山上揚平 (社会連携部門特任講師)

高校生と大学生のための金曜特別講座

⑥新井宗仁 (総合文化研究科教授)

質疑応答・パネルディスカッション

閉会挨拶 真船文隆 (教養学部副学部長)

いちょうの 部屋

学内マスコット放談



今回のゲスト
ユータスくん

教養学部教務課マスコットキャラクター

好物はパフェと町中華のラーメン。ギターやサックスやハンドベルなど楽器が得意。同郷のユータス子ちゃんが恋人か否かは不明。科目等履修生の顔も。

いちょう 濡羽色のボディがクールだね。ペンギン？
ユータスくん よく間違えられるけどカラスだよ。出身はからす座の銀河。2003年に修行の旅に出たら宇宙船が地球に墜落しちゃって。当時駒場にいた永田敬先生に助けられたのが縁でキャンパスに居ついたんだ。19年前か……(遠い目)。年齢は永遠の18歳だけだね。
い ずっと駒場の学務システム (UTask-Web) の仕事をやってきたんだよね。大変？

ユ 前期課程の学生が毎日アクセスしてくれるように、「ユータスくんの窓」という欄をログイン画面に設けて日々の暮らしぶりをイラストで公開してきたんだ。2020年度はコロナ禍の影響でずっと居眠りしていたけど、昨年度からは週6日ペースでイラストを更新しているよ。アーカイブは未公開だから、その日の絵はその日にしか見られない仕組み。一期一会だね。

い ほぼ毎日更新してんの!? ユータスくんじゃなくて、絵を描いている担当職員さんが大変だね。

ユ 途中で異動もあったけど、幸い後任も絵を描く人だね。いまはまた当初の担当が復帰して描いているよ。まあ、おかげで朝日新聞や東大新聞に取材されたりしたから、結構報われているんじゃないかな。バレンタインデーに淋しくチョコを自作したこととか、居候宅のネコがあまり懐いていないこととか、情けなさを強調するようなことも描かれるのが玉に瑕だけだね。

い そういや前にカレンダーになっているのを見たよ。

ユ 駒場友の会の支援のおかげで、以前は生協が販売してくれていたんだ。500~1000部ほど刷ってたかな。商品じゃないけど、アドミニ棟1階の窓口には服飾が専門の先生が作った巨大人形(メガユータスくん)がいるよ。フェルトでミニ人形が作れる型紙も公開中だから、情熱のある人が作って慈しんでくれているね。

い ほかの学内マスコットとの交流はあるの？

ユ カレンダーでは英語部会のmiyoちゃんと共演したよ。濱田総長期に活躍したもりかまは親戚のようなものだし、駒場祭のこまっけろと協働したこともある。

い 実は無職とも聞くけど？

ユ 学務システムの更新で求職中なのは事実。でも教務課マスコットとして今後も淡々と「本日のユータスくん」の絵(↑)を更新していくよ。

い 今度いちょうも登場させてよ。



専門知と地域をつなぐ架け橋に

FSレポート!

第18回

教養学部4年 **伊藤大貴**

若者をつなぐ、未来へつなぐ

私たちは、「(特に都市在住の若者が) 関係人口になるきっかけづくり・土壌づくり」をテーマに、山形県鶴岡市温海地域で活動しました。夏休みに予定していた現地活動が中止となり、10月ごろまではオンラインインタビューを中心に活動しました。しかし、11月に2日間の現地活動を実施することができ、温海の魅力・課題・施策アイデアを考える中学生ワークショップや、地域づくりプレイヤーへのインタビューを行うことができました。その後、施策作成に入りましたが、地域の人にとってのメリットや実現方法を具体的に議論することが難しく、チーム内での議論に行き詰まりを感じていました。



中学生とのワークショップ

そこで2月の発表会では、具体的な施策案を発表するのではなく、用意した施策ネタをもとに、住民と学生の双方にとって面白く実現可能な施策を、住民の方々と一緒に考えることにしました。そこで出た施策のうち、「中高生との繋がり(勉強・進路の相談、その他交流)」と「あつみ温泉湯奥まつりでの神輿担ぎ」は、実装に向け動いています。



あつみ温泉と若者の関わり方について議論

FSは、地域住民の方、行政の方、東大事務局の方などたくさんの方々に支えられて成り立っています。地域の多様な方々と会うことができ、リアルな地域課題が学べる地域への入口としてとても良いプログラムです。一方で、FSはあくまで入口にすぎません。FSをきっかけに地域に飛び込み、自分のやりたいことをやってみる学生が増えてほしいと思います。

私たち東大FS2021チームは、今後もそれぞれのやり方で温海と関わっていきます。私たちの目標は、常に温海と関わる大学生がいる状態をつくることです。温海に移住した二人の学生を中心に、これからは地域と大学生を繋げていきます。私たちのように、温海に愛着を感じ、やりたいことを見つけ、温海と深く関わる人を増やしたい。そして、その方たちに次のつなぎ手となってもらいたい。まだまだ道半ばですが、応援のほどよろしく願いいたします。

※メンバーはほかに梅田綾人(文一2年)、高丸はづき(文二2年)、高石桜(教養4年)、山口有紗(公共政策専門職2年)

ワタシのオシゴト 第192回

RELAY COLUMN

経済学部等財務・研究協力チーム
財務担当 央戸靖彦

文系会計、あなどるべからず!



言葉の解釈はお任せします

経済学部の財務担当では、外部資金受入を除き、会計に関すること、全般を所掌しております。

コロナ禍発生直後の、2020年4月に、初めての文系部局の会計に異動、と聞いた時は、少し楽できるかな、なんて甘く考えていました。

ここでは、会計の知識を、「広く深く」求められます。会計系を10年近く離れていた身としては、以前の知識のリバイスと新たな情報収集で天手古舞です。

本部の方々に助けをいただきながら、業務に邁進しております。

私生活では、8歳と3歳の男の子がおります。

この4月に、下の子が幼稚園に入園しました。

休日には、コロナを気にしつつ、どうすれば怪獣達の体力を削れるか、思索と闘いの日々、を苦しみながら楽しんでおります。



我が家の怪獣たち

得意ワザ：尊敬する先輩の教え、定時退勤
自分の性格：おおざっぱ。会計でいいんですか？
次回執筆者のご指名：高井次郎さん
次回執筆者との関係：広報業務の秘密の共有者
次回執筆者の紹介：非常事態回避のスペシャリスト

ぶらり
構内ショップの旅

カポ・ペリカーノ @本郷キャンパス の巻

待望のランチ再開しました

本郷キャンパスの医学部教育研究棟13階にあるイタリアンレストラン、Capo Pellicano (カポ・ペリカーノ)。「キャプテン・ペリカン」という意味の店名は、ボリュームがある料理を食べしてほしいという思いから、大食漢なペリカンを冠したそうです。高層階からの眺めも好評で、天気の良い日にはスカイツリーも見ることができます。

コロナ禍でしばらくはお弁当のみの営業でしたが、今年4月に店内でのランチを再開しました。「再開時期について、これまで多くのお問い合わせをいただき、心苦しく思っていました。また多くの方に来ていただきたいと思って

シェフの福田昭二郎さん
います」と話すのは、2016年からシェフを務める福田昭二郎さんです。

現在のランチメニューは、900円のイタリアンランチボックスと要予約の1,500円と3,000円のコースの3種類。週替わりのランチプレートは、イタリア風オムレツや野菜のマリネなどの前菜に、肉料理とパスタがつきます。一階の鉄門カフェで発売しているお弁当と同じ内容ですが、レストランでは温かい出来立てのものを食べることができます。休業する前に提供していた、人気のパスタランチなどは現在休止していますが、一日でも早くコロナ禍前のような通常営業の状態に戻し、全てのメニューを復活させたいと考えているそうです。

イタリアの家庭料理を作るのは、福田さんを含む3人のベテランシェフ。それぞれイタリア料理界で10年以上のキャリアを積んできているので、「確かな味をお出しできると思います」と福田さんは話します。夜はグループでのコース料理と、フリードリンク付きのパーティープランを受け付けています(要予約)。「是非ご利用いただきたいです。ケータリングにも対応しているので、お気軽にご相談ください」



ランチ ● 12:00～
14:30 (L.O.14:30)
お問い合わせ：
03-5841-1527

前菜やパスタなどが盛られたランチプレート。店内では出来立てを食べることができます。

<http://www.capo-p.com/>

インタープリターズ・第177回 バイブル

理学系研究科 教授 塚谷裕一
科学技術インタープリター養成部門

絵本のつくりかた

サイエンスを伝えるツールとして、子ども向けの絵本というものもある。昨年から何回か監修役をひきうけてみて、改めて暗黙知の大事さに気がついた。

具体的にはこうである。

絵本の絵はイラストレーターさんが描くわけだが、絵描きさんご自身の発案による企画を別とすれば、題材は編集部が指定することになる。その際、編集部は、イラストを描くのに役立つような写真の掲載されたウェブサイトをいくつか探してきて「これで描いていただくのでどうでしょう」と監修者に聞くわけだ。中にはラベル違い、被写体違い、あるいは典型的とは言えない姿の写真なども混じっているの、それを指摘するのが、監修者の役目である。

ここさえしっかりしていれば、あとは大船に乗った気分……と思っていたのだが、思いがけない落とし穴があった。植物の、根元である。

植物の写真はほとんどの場合、花や実を主眼に撮影されている。だから根元の写っていない写真が大半だ。それらをもとに描かれてきた下絵を見ると、あら不思議、幽霊のように足（根元）がない。いや、さすがに全く無いわけではないのだが、まるで切り花をいきなり地面に刺したかのような姿で描かれてくる。すなわち根元にはただの茎しか無い。いやこれは変でしょうと指摘して、根元の茎にも葉がついてないといけません、と言うと、今度は地面すれすれのところに、大きな大きな葉が描かれてくる。いやいや、種をまいて芽が出た最初は、いきなりそんな大きな葉は出てきませんよね、まず小さな葉が出て、だんだんに大きな葉に移っていくのでしょうか？となだめすかして、なんとか自然な姿に仕立てていくこととあいなった。

この一連で思い出したことがある。とあるアニメの実写映画でキャベツ畑を演出するのに、スーパーで売られている玉のキャベツを地面に列にごろごろと置いて撮影し、大いに話題になったという事例である。

見えない部分はもちろん見えない。だが、想像力と暗黙知があれば間違いはしないはずなのだ。今回の場合は、植物には根元がある、植物が育つときはまず小さな葉から始まって次第に大きくなる、こういった暗黙知が必要だった。伝えることの難しさである。

科学技術インタープリター養成プログラム
<http://science-interpreter.c.u-tokyo.ac.jp>

ききんの き

寄付でつくる東大の未来

第31回

渉外部門 シニア・ディレクター 高橋麻子

コロナ禍で広がった応援の輪

新型コロナウイルス感染症（以下新型コロナ）の影響で私たちの生活環境が変化しておよそ2年が経ちます。日本ではこれまで地震や洪水など大規模な自然災害が発生した時に、たくさんの方が寄付をする現象がありました。1995年の阪神淡路大震災のときには寄付した人の割合は41.6%、2011年の東日本大震災では54.1%、2016年の熊本地震では27.8%でした（『寄付白書2017』より）。当時被災地の様子を見聞きし、何かできることはないかと、義援金や被災地支援として寄付をした方も多いのではないのでしょうか。

今回の新型コロナはどうだったのでしょうか。『寄付白書2021』によれば、新型コロナのパンデミックが全世界に広がった2020年に日本で何らかの寄付をした個人は44.1%であり、新型コロナ関連への寄付に限ると全体の8.7%でした。大規模災害時と比べて寄付行動へのインパクトが小さくなった背景には、①災害時には被災者と支援者という明確な立場の違いがありましたが、新型コロナの場合は、感染リスクから「誰もが受難者（もしくはそうなりうる立場）」であったこと、②社会全体が経済的打撃をうけたこと、③長期の外出制限があったことなどが挙げられます。寄付先を見ると「医療」が47.0%と一番高く、次に「共助（福祉/子ども/孤立対策等）」が32.3%と、自らも影響を受ける分野への注目が高まりました。

寄付者像を見てみます。2020年の年齢層別の全体の寄付者率では、年齢層が上がると寄付者率も上がりますが、新型コロナ関連寄付だけを見ると若年層ほど寄付率が高い傾向が見られ、平均寄付金額は中年層の50代が一番高く、重症化リスクが比較的低くオンラインに対応できる若年層や高所得の中年層が寄付したことが分かりました（『寄付白書2021』）。

東京大学基金では2020年に新型コロナウイルス緊急対策基金で約2億3000万円、経済的支援を必要とする東大生を支える修学支援事業基金に約5500万円のご寄付をいただきました。寄付者の特徴として、これまで中心だった卒業生シニア層に加えて、新規で、オンライン経由で、かつ卒業生以外の若年層～中年層の寄付が爆発的に増えました。

東京大学が卒業生以外からも寄付を受け付けていることはあまり知られていませんでしたが、今回のコロナ禍で、東京大学が社会貢献活動をする団体として認識、注目され、寄付で応援できることが広く知られたことは大きなインパクトでした。若年層に関わらず全世界でオンライン対応必須となり、コロナ禍がファンディングの変換点となったのは間違いありません。

トピックス 全学ホームページの「UTokyo FOCUS」(Features, Articles) に掲載された情報の一覧と、そのいくつかをCLOSE UPとして紹介します。

掲載日	担当部署・部局	タイトル (一部省略している場合があります)
4月12日	本部総務課	令和4年度 東京大学学部入学式を挙行
4月12日	本部総務課	令和4年度 東京大学大学院入学式を挙行
4月12日	未来ビジョン研究センター	SDGs シンポジウム 2022 を開催「エネルギーシステムから考える持続可能な開発目標間の関係」
4月12日～5月10日	本部広報課	ハリウッド映画が日本を経由して韓国に輸入された知られざる理由 (鄭仁善)、中国系移民の映画とアイデンティティ——ナショナル・シネマの枠組みを突き破って (韓燕麗)、劇映画に負けない歴史を持つ記録映画1万本を収集・保存し活用へ (丹羽美之)、三島 vs 東大 全共闘の討論会を熱と言葉のドキュメンタリーに (豊島圭介さん)、大学のプログラムをフル活用した遠州出身のフィルムメーカー (後藤美波さん) / 『淡青』44号より
4月14日	本部学生支援課	六大学野球開幕! 始球式で総長が投球!
4月15日	本部社会連携推進課	2021年度 フィールドスタディ型政策協働プログラム活動報告会を開催
4月15日	本部渉外課	iGEM UTokyo へのご支援のお願い～世界に挑戦する学生たちが微生物で社会を変える～
4月18日	理学系研究科・理学部	「ほのぼの物理キーワード辞典」動画配信開始のお知らせ
4月18日	本部博物館事業課	IMT 学生ボランティア募集
4月18日	本部渉外課	東京大学基金寄付者インタビュー第二十三回 先輩から後輩への恩送り 若手運動会 OB の想い
4月21日	本部国際戦略課	受入決定のお知らせ (ウクライナ侵攻を受けた「学生・研究者の特別プログラム」)
4月21日	本部環境安全課	第6回東京大学環境安全衛生スローガン募集
4月25日	定量生命科学研究所	鯨井智也助教が文部科学大臣表彰 若手科学者賞を受賞
4月25日	本部社会連携推進課	東京大学×日本財団 研究成果の発表 海洋プラスチックごみ対策事業
4月26日	本部渉外課	株式会社バッファロー様からパソコン用充電器をご寄贈いただきました
4月27日	農学生命科学研究科・農学部	勝山陽平准教授が令和4年度文部科学大臣表彰を受賞 科学技術分野(若手科学者賞)
4月28日	理学系研究科・理学部	合田圭介教授がフィリップ・フランツ・フォン・シーボルト賞を受賞
5月2日	本部広報課	ロシアのウクライナ侵略と国際秩序——分離紛争と軍事同盟
5月9日	本部学生支援課	東京大学・一橋大学対校競漕大会で本学漕艇部が大勝利!
5月9日	本部広報課	米国人CTOがロボット大国・日本で起業、物流革命に貢献/Entrepreneurs 13
5月11日	医学部附属病院	小室一成教授らが文部科学大臣表彰 科学技術賞(研究部門)を受賞
5月12日	本部広報課	令和4年春の紫綬褒章受章

CLOSE UP バッファロー様からパソコン用充電器が贈呈されました (本部渉外課)



株式会社バッファロー様から、新入生と医学部の学部生を対象に、USB Power Delivery 対応のパソコン用充電器3850台をご寄贈いただき、4月22日に贈呈式が行われました。本寄贈は、コロナ禍のもと本学においてもオンライン授業が増加しさまざまな場所で受講する学生が増えるなか、学業や研究への大い

なる後押しになるものです。安田講堂で開催された贈呈式では、株式会社バッファローの牧寛之社長から寄附目録が、藤井輝夫総長からご寄贈への感謝状が贈呈されました。その後、藤垣裕子理事・副学長、津田敦執行役・副学長を加えて懇談会が開催され、今後の展開について意見が交わされました。

春の紫綬褒章受章

野崎京子教授(工学系研究科・工学部)、玄田有史教授(社会科学研究所)が、令和4年春の紫綬褒章を受章しました(令和4年4月29日付け内閣府発令)。おめでとうございます。それぞれゆかりの深い先生が執筆した紹介記事については、全学ウェブサイトの「各賞受賞一覧」のページからご覧ください。



左:
野崎京子先生
右:
玄田有史先生

※「学内広報」では広告掲載を受け付けていません。出稿を検討したいという皆様のお問い合わせお待ちしております。↓本部広報課(03・5841・2031)



CLOSE UP SDGs シンポジウム2022 を開催



藤井輝夫総長と松橋隆治教授が開会の辞を述べ、瀬川浩司教授とシュプリンガー・ネイチャーのエド・ガーストナー博士が基調講演を実施。パネルプレゼンテーションでは、杉山昌広准教授、ムハンマド・アズィズ准教授、京都大学のグレゴリー・トレンチャー准教授、九州大学の林灯教授など、5人が登壇して議論を行いました

3月29日、シュプリンガー・ネイチャーと共同で、エネルギーシステムと持続可能な開発目標(SDGs)の接点に関するシンポジウムを開催しました。両者が共催するSDGsシンポジウムは、2019年、2021年に続き3回目。今回はSDG7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」に焦点を当て、他SDGsとの関わりについて議論しました。安価なエネルギーへの安全で信頼できるアクセスは、世界のほぼすべての国において政策の優先事項であるものの、エネルギーシステムは、持続可能性に直接的・間接的にさまざまな影響を及ぼす可能性があり、更なるその影響は、人為的な気候変動、生態系の劣化、人間の健康や福祉

(未来ビジョン研究センター)

への影響に至るまで多岐にわたります。そのため、多くの学者、政策立案者、実務者が、クリーンで安価なエネルギーシステムへの移行が、世界的に持続可能な開発を達成するための優先分野であると認識しています。このような高い問題認識を反映し、エネルギーシステムと持続可能性の接点におけるさまざまな側面に関する専門家が集まりました。

本シンポジウムは、世界各国から400名余りが視聴し、うち85%が日本から、15%が海外からでした。学術・研究機関、学生、若手研究者の参加が多く、加えて、政府機関、民間企業、市民団体などからの参加もあり、学際的なイベントとなりました。



CLOSE UP 海洋プラスチックごみ対策事業の研究成果を発表 (本部社会連携推進課)



フォトセッションにて。左から京都大学の浅利美鈴准教授、津田敦執行役・副学長、藤井輝夫総長、日本財団の笹川陽平会長、同財団の海野光行常務理事 (写真提供：日本財団)

4月19日、東京大学と日本財団は、世界的に増加し続ける海洋プラスチックごみ(以下、「海洋プラごみ」)の問題に関する科学的知見の充実を目的に2019年5月に開始した共同プロジェクトの3年間の研究成果について、記者発表会を開催しました。データやエビデンスが特に不足している大きさ1mm以下のマイクロプラスチック、さらに小さいナノサイズのプラスチックの「海域における実態把握」「生体への影響」「海洋プラごみの発生フロー-解明と削減管理方策」の3テーマに係る

研究成果や、結果から示唆される今後の対策や可能性について発表しました。たとえば、日本周辺から北太平洋にかけての海域における実態把握では、1950年~1980年代におよそ10年で10倍のペースで海洋プラごみが増えていたこと、1950年代から最近まで徐々に大きさ5mm以下のプラスチックの割合が増えてきていることなどがわかりました。こうした研究成果を踏まえ、さらに実態や影響について解明し効果的な対策に結び付けるため、3年間事業を継続することとなりました。



CLOSE UP 一橋大学との対校競漕大会で漕艇部が大勝利! (本部学生支援課)



ゴール後勝利に喜ぶ対校エイトクルー

5月1日に戸田ポートコースで東京大学と一橋大学の対校競漕大会(ボート東商戦)が開催されました。その起源は明治20年代の第一高等学校対東京高等商業学校の対校戦にまで遡り、昭和24年から数えて今年で74回目を迎える伝統の競漕大会です。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、2020年度の大会は前代未聞の中止となり、2021年度は無観客での開催となりましたが、

今年度の第74回大会は、感染対策を徹底しながら有観客で開催される運びとなりました。

試合では、困難な状況のなかでも必死に鍛錬を続けてきた選手たちの実力が十分に発揮され、対校女子舵手なしペア、対校エイトの二種目において優勝を果たしました。女子対校種目は2007年以来、対校エイトは2008年以来的優勝ということもあり、勝利の瞬間には会場が大きな歓声に包まれました。

五月祭がハイブリッド形式で開催されました



5月14日~15日に第95回五月祭が行われました。コロナ禍により2年続けてオンライン開催でしたが、今回は来場者数を制限し飲食を伴う出店を禁止した上でのハイブリッド開催でした。テーマは「汽祭域」。淡水と海水が混在する汽水域のように、出展者と来場者、現地とオンラインが混じりあって価値を生む、との思いがこもっていました。研究成果の展示、音楽演奏、趣向を凝らした各種パフォーマンス等、268件の企画が行われました。五月祭常任委員会の学生たちが、早期より感染対策に取り組み、来場者の安全面にも十分配慮した結果、事故なく無事に終えることができました。



研究室、宇宙、オンライン空間

4月中旬のある日、私は文学部の中国思想文化学研究室に本を借りに行った。卒業して以来、閲覧やコピーで研究室に行ったことはあるが、本を借りるのは久しぶりである。自分の貸出カードを箱から取り出す。最後に借りたのは2012年であるが、驚いたことに、先週授業で使った本と同じ本を借りている。10年間、私の研究に進歩がないことを示唆しているが、それよりも、自分の筆跡で書かれたその本のタイトルを見た時、私はまざまざと、当時の研究室と、そこに座っていた自分を思い出した。

大学院生の頃、研究室に居場所を作ろうとしていた私は、授業のない日も午前中から来て、閉室の時間によりやく帰宅した。落ち着く位置を決めて机に向かって座り、先生に論文の進捗を聞かれたくない時は本棚に隠れながら、中国の音楽や天文暦法について、私は確かに考え続けていた。その時に考えていたことが、貸出カードを見た時に、場の記憶とともに一気に蘇る。

私が借りていたのは、東アジア科学史が専門の山田慶児氏の本である。山田氏は、360日を一太陽年の近似値とし、周天度数を360度に固定したバビロニア天文学に対し、中国天文学では、一太陽年を決め、その数値に等しく周天度数を選んだという。すなわち、中国の天文学者たちは、あくまでも太陽年に即して考え、認識を構成物として抽象化し、自然から完全に独立させようとしなかった(『朱子の自然学』、岩波書店、1978、p.231)。それが彼らの空間認識であり、自分たちを包む天や宇宙に対し、そうあってほしいと願うあ

り方なのであろう。

この日は、東洋文化研究所のオンライン歓迎会で司会を務めた日でもあった。コロナ禍の二年前に着任した私だが、新しく来た方をお迎えする役回りとなったのである。ここ数年の間に馴染んできたオンライン空間を、私たちはどう認識してきたのだろうか。あくまでも自分の実際の生活の延長として捉えようと試行錯誤した人もいるだろうし、抽象化された空間の特徴を授業や会議に生かそうとした人もいるだろう。

研究室、宇宙、そしてオンライン空間。いずれにおいても私たちは、そこで過ごし、考えるために、場をかたちづくろうとする。また十年後に、この時を振り返った際、私たちがこの時、どのような場を作ろうとし、世界にどのようにあってほしいと考えたのか、オンライン空間の経験は何かを教えてくれるかもしれない。

田中有紀
(東洋文化研究所)



東文研入り口にて…獅子像の背中から月を望む

